

り。又、この世に育つる果實は

新型コロナウイルスによつて、これまで世界が困窮するとは想像もしませんでした。SNSといわれて、一人ひとりと距離を保ちましょう」「大勢で集まることは避けましょう」「大声でお話します」「食事も向き合つて食わずに一人で静かに食べましょう」と。通常私たちが平和な社会生活を送るには、一できるだけ人と楽しくお付き合いをしましょう」ということなんでしょうが、今は全く真逆が求められています。

人との付き合いもなかなか難しいものです。が、人との付き合いができる、というのものが、愛別らしいものです。「愛別

が出来なくても、わが名、南無阿弥陀仏を呼んでおくれ、その名前の中に、あなたたちが仏に成るためのはたらきをすべてこめているからと、願いはたらくす。苦しむ阿弥陀様にすべきを任せきることのうことは、有難いことと思ふことです。

○進化論

進化論で有名なダーウインが面白い研究結果を残しています。それは生き物の中で生き残ることが出来る生き物とは、どういう生き物かという事です。普通にかといふ考えれば「最も強いもの」「最も賢いもの」と考えます。いのちでも違うらしいのです。もちろん、弱い生き物よりは強い生

です。例えば地球が温暖化したとき、確かに暑さに負けない強い体力を持つ生き物や暑さをしのぐ知恵を持つている賢い生き物が、より生きながらえるのかもしれない。

けれども一番生きながらえる生き物というのは、その暑さに馴染んで変化していくことのできる生き物なのだそうです。

つまり環境に柔軟に変化できる生き物です。

○力の限界

近代文明は西欧文明として発達してきましたが、その根本的な考え方はキリスト教の考え方です。

宇宙の万物はすべて神が創造したものであり、神の創造物には差があるとし、人間が中心でありその他の生き

合の悪いものを打ち負かす力を、都合の悪いものから逃れる賢さを求めてきました。これが文明科学です。けれどもダーウインが言うように、力と賢さだけでは本当の意味で生きながらえることはできない。そういう行き詰まりがたくさんの見え始めたのが現在の様々な地球的課題なのではないでしょうか。

○縁起の世界観

「柔軟に変化する」ことは、あるがままをそのまんまに受け入れるという縁起の世界観に通じるように思えます。

今、仏教的な世界観が見直されて、が、なにか非分な感じがして、住職法話より

『住職近況』

武蔵野大学は

武蔵野大学報恩講法要

